



北海道情報大学

同窓会 会報 Vol.11

発行:平成25年12月1日
北海道情報大学同窓会



主体的な学びと
教育に向けて

北海道情報大学 学長

富士 隆

平成25年3月末、これまで本学の学長として
多大な貢献をされてこられた長谷川淳先生が
任期満了で退任されました。その後を引き継いで
4月から学長に就任しました富士でございます。
どうぞよろしくお願ひいたします。



「日本の大学は崖っぷち」

わが国では、18歳人口の減少によって大学全入時代を迎え、多様な学生が年々増加しています。多様な学生とは、これまでのように優秀な学生に加えて、基礎学力が十分でない学生、そして大学で学ぶモチベーションが十分でない学生が入学しているということです。その一方で、大学教育の質の保証が求められています。大学を卒業したら「何が出来るのか」が問われることになります。また、米国では、インターネットを利用したMOOC (Massive Open Online Course: “ムーク”、大規模公開オン

ライン授業) が出現し、各大学の特徴ある授業内容が無料で公開されています。世界中の若者から優秀な学生を集めれる有効な手段になるでしょう。

このような環境の変化に適応できない大学は、生き残ることが困難な時代になっています。そういう意味で、日本の大学は、今、まさに崖っぷちに立っていると言えますし、本学も同じ環境にあるということになります。

「主体的な学びへシフト」

同窓生の皆さんも日々厳しい環境の中で頑張っておられると思いますが、日本の企業もグローバル化の時代にあって、グローバル人材の育成が喫緊の課題となっています。グローバル人材とは、「主体性」を持った人材です。「主体性」とは、自ら問題を発見し、自ら解決策を考え、異なる考えを持つ他の人々と議論し、チームで解決策に導いていくことです。

本学では、そのような「主体性」を持った人材に導くための学習環境システムをiPad上に実装しています。例えば、「先輩の職場見学(動画)」をクリックすると、先輩の仕事ぶりや、先輩からのアドバイスなどの情報を得て、将来の方向を考えるきっかけになるでしょう。また、新しく開発されたマルチメディア教材は、アニメーションや動画などが配置され、学ぶことの感動を与えるでしょう。授業も一方通行ではなく学生参加型の形態に進化していきます。このようなシステムは、現在試行中ですが、平成26年度から1年生全員にiPadを配付し、主体的な学びへとシフトしていく計画です。そのためには、授業運営に責任を持つ教員も変わらなければなりません。本学には、教員がPDCAサイクルを効率的に回すFD支援システムCANVASがありますので、それらを活用しながら教育の質の向上を目指してまいります。

本学を取り巻く環境は厳しいものがありますが、これを次への大きな飛躍の機会として捉えるべく教職員、本学の学生と保護者、そして同窓生の皆さまとの絆を大切にしながら前進していきたいと思います。今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。